

## ♪ 研修会参加記 ♪



## 研修会に参加しました

森 由加

今年も昨年に続き、研修会に参加することができました。昨年は、病院図書室に勤めて初めての研修で、そこからやっと図書室業務らしいことが始められるようになったと思います。今年の研修会直前の7月には当院の機能評価受審があり、図書室としてはまだ発展途上ながら、研修会や皆さんからの応援のおかげで前向きに臨むことができました。その皆さんと一緒に研修を受けられる事を、魅力的な研修プログラムと共に楽しみにして参りました。

研修会1日目の基礎講座の「著作権」については、折に触れ頭に浮ぶものの着地点が見出せずにいる問題ですが、現段階での権利内容や病院図書室の役割、法解釈など分かりやすく教えていただきました。「LinkOut」は、登録の手間を考えても利用者に喜ばれる便利なものと、大変参考になりました。無料電子ジャーナルに続き、何とか活用できたらと思います。

事例報告では、病院図書室の先達による試み・活動を知ることができました。病院として、担当者として、常に向上できる点を探して取り組む姿勢に、目先の業務をこなすことで精一杯の自分も背筋をのばし、一緒になって少し(かなり?)遠くまで見渡す気持ちになりました。

インターネット活用講座の丁寧な解説から、何となく使いこなせているように思っていたインターネットが、目的に応じて使い分けると、効率のかつよりよい交流が可能だと再認識しま

した。

医療センター内でのイブニングセッションも楽しみにしていた通り、気の置けない雰囲気であっという間に時間が過ぎました。

2日目の公開講座は、まず午前中に、医学図書館・病院図書室における最先端の機能・役割・課題を、数値データなどに基きながらお話いただきました。デジタル化・効率的なシステムについての講演ですが、理路整然とした中に「利用者のために」こそ機能充実を目指す担当者の暖かさを感じました。

午後に入り、上野創記者の講演が始まると、様々な衝撃がありました。情報を取り扱うプロである人が、自分の病気に関する情報収集を行う、その行為の真の意味。図書室の仕事は常に相手(利用者)の立場にたって行われているものとも言えますが、体験したご本人から直接聞くと「支援」の形、「良き支援とは」など、改めて考えさせられました。本当に「お話を聴けて良かった」と感謝しています。

常世田さんの大きな視野で図書館機能を国益につなげるお話も印象的でした。病院の中での図書室担当者にも、違った角度からの活躍があるかも知れないと思いました。

どの講座・講演もひとつひとつ勉強になりましたが、2日間とも参加できたことで、より深く心に残りました。研修の準備をしてくださった方々のセンスと熱意に感服、尽力に心から感謝しています。これからもこの心強い繋がりを糧に、励んでいきたいと思います。

---

MORI Yuka

福岡赤十字病院 図書室

library@fukuoka-med.jrc.or.jp